

令和5年度 第1回さいたま市立教育研究所運営委員会会議録

1 開催日時 令和5年7月14日(金) 10時30分～11時45分

2 会場 さいたま市立教育研究所 2階 第2研修室

3 出席者名

<運営委員会委員>

※敬称略

堀田 香織(委員長) 田中 洋安

河野 秀樹 田中 一秀

安藤 幸子 五十嵐 淳

細井 博幸 紺頼 麻子

吉野 浩一 安藤 真理子

小林 正美 小口 聡美

入澤 真理香 伊藤 真弓

<事務局職員>

所 長 深津 健太郎

所長補佐 後藤 正憲

調査研究係長 大澤 貴史

研修係長 阿部 史朗

I C T教育推進係長 関 正人

欠席者名

<運営委員会委員>

渋谷 恵子

4 会議の公開 公開

5 傍聴人 0人

6 内 容 (1) 令和5年度教育研究所の組織・運営方針及び事業概要について
(2) 令和5年度各係の事業計画等について
(3) 質疑、協議

7 問い合わせ先 さいたま市教育委員会学校教育部教育研究所
電話 048(838)0781

8 質疑応答・協議要旨

○=委員から ・=所員から

委員長	○「学び方」、「教え方」、「働き方」、「教師の主體的・対話的で深い学びの実現」を中心に協議を進めていく。どの角度からでも構わないので、質問、感想をいただきたい。
委員	○学力向上カウンセリング学校訪問を早期に実施させていただいた。コンパクトにまとまった研修で、先生方自身がよく考えて分析する姿を見て、話合いの大切さに気付かされた。受講奨励は、よい研修体制であると感じたが、初めてだったので試行錯誤しながら実施した。様々な研修について知り、どんな内容で、どんな時期にやるかなど自分自身が知らないと感じられるので、校長の力量が必要であると感じた。
委員長	○学力向上カウンセリング学校訪問、受講奨励と順調にスタートし、学校の起動力となっていると感じる。
委員	○振り返りシートを活用した受講奨励はとてもやりやすかった。初任者研修のあり方について、初任者の負担が大きく、特に夏の宿泊研修は中学校にとっては部活動があるため厳しい。夏の初任者研修の充実よりかは、春の早い時期に自分の気持ちを吐露できる場を設定できるとよいのではないか。
委員長	○教員養成学校として、卒業生のケアに着手しようと考えつつも、稼働できていないのが現状である。初任者の負担感やネットワークづくりについてどう考えているか。
事務局	・宿泊研修によって、自分と同じ境遇の仲間と話ができたという感想を多数いただいた。初任者研修のあり方については、いただいた意見を参考に、初任者の負担感を踏まえ、お互いの関係づくりを早期に設定できるように検討していきたい。
委員	○スクールダッシュボードの活用をうまくできるか現場では不安がある。学力向上カウンセリング学校訪問は、オンライン化されたことにより気軽に研修を受けられると感じている。
事務局	・スクールダッシュボードの導入によって業務改善につながり、経験や勘だけではなく、データに基づいた別の視点からの気付きを得られると考えている。ただ、システム頼りになってしまわないように、先生方の気付きに対する支援の一つとして、使い方を含め十分に説明をしていきたい。学力向上カウンセリング学校訪問のオンライン化は、指導主事の移動時間がなくなり、業務改善にもつながっている。
委員	○市教研の教育研究会において、ICTを効果的に活用した探究的な学びの質の向上に向けて、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を積極的に取り上げて、各専門部で研究課題の設定、授業研究会の準備を進めているところである。
事務局	・教育研究会、市教委、学校が組んで研修を進められるところは、さいたま市の強みであると感じている。夏季休業中には、教育研究会の各部会と教育研究所との共催研修も実施されるので、先生方の学びを今後も支えていきたい。
委員	○スクールダッシュボードには、現在中学校で取り込まれている「やり取り帳」のようなものは含まれているのか、また、どのような機能が含まれているのか。
事務局	・校務支援システムやミライシード、Microsoft365など普段使っているものを可視化することでより効果的な支援につなげていくことを想定している。今後は学校ごとのカスタ

	<p>ムについても検討事項とはなってくるが、教育委員会側からの支援が難しくなる部分もある。やってみながら意見をいただいて、反映をしていくことを繰り返しながらシステムを構築していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周知についてはまだ不十分な点が多々ある。学校や保護者、地域の方々に対して、何のためのものなのか、どんなデータが必要になるのかなどの説明を、今年度は重点的に行っていく。
委員	○今年度の1月からの導入という認識でよろしいか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度本構築したシステムをテスト運用という形で、全校実施をしていく。
委員	○研修のあり方について、県では非対面式の研修を増やしている現状があるが、対面式の研修でないと得られないものもあるという意見をいただいている。さいたま市の状況を教えていただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今後のことを見据えて、本市でも初任者研修の中で4回、オンラインによる研修を計画しており、1学期にすでに2回実施をした。オンラインに不慣れな部分や対面による人間関係づくりという点を踏まえると、1学期は対面による研修が望ましかったのかもしれない。
委員	○初任者にとっては、学校現場を離れてお互いの近況や悩みを直接話すことが目に見えない関係づくりにつながっており、大切なことであると感じている。
委員	○本校の職員がこの夏に県主催の研修を受講することになっているが、県とさいたま市の研修の連携について教えてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・現状として、5年経験者研修の一環として、埼玉県とのコラボ研修を実施している。それ以外での実施はないため、今後の検討課題となる。 ・高等学校の教員に対する研修会が本市では実施されておらず、県で実施されている研修会に参加しているという実態がある。今後は、研修受講履歴として把握していく必要があり、県とも連携を図っていく必要がある。